

第3期健康横浜21の策定状況について

3月末に策定した「第3期健康横浜21～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～」の概要と今後のスケジュール等について報告します。

1 第3期健康横浜21の概要

横浜市民の最も大きな健康課題の一つである生活習慣病の予防を中心とした、横浜市における総合的な健康づくりの指針として、健康増進法に基づく「市町村健康増進計画」を軸に、関連する分野の計画として、横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例に基づく「歯科口腔保健推進計画」及び食育基本法に基づく「食育推進計画」の3つの計画を一体的に策定します。

(1) 計画期間

令和6年度（2024年度）～令和17年度（2035年度）の12年間

(2) 基本理念

共に取り組む生涯を通じた健康づくり

(3) 基本目標

健康寿命の延伸

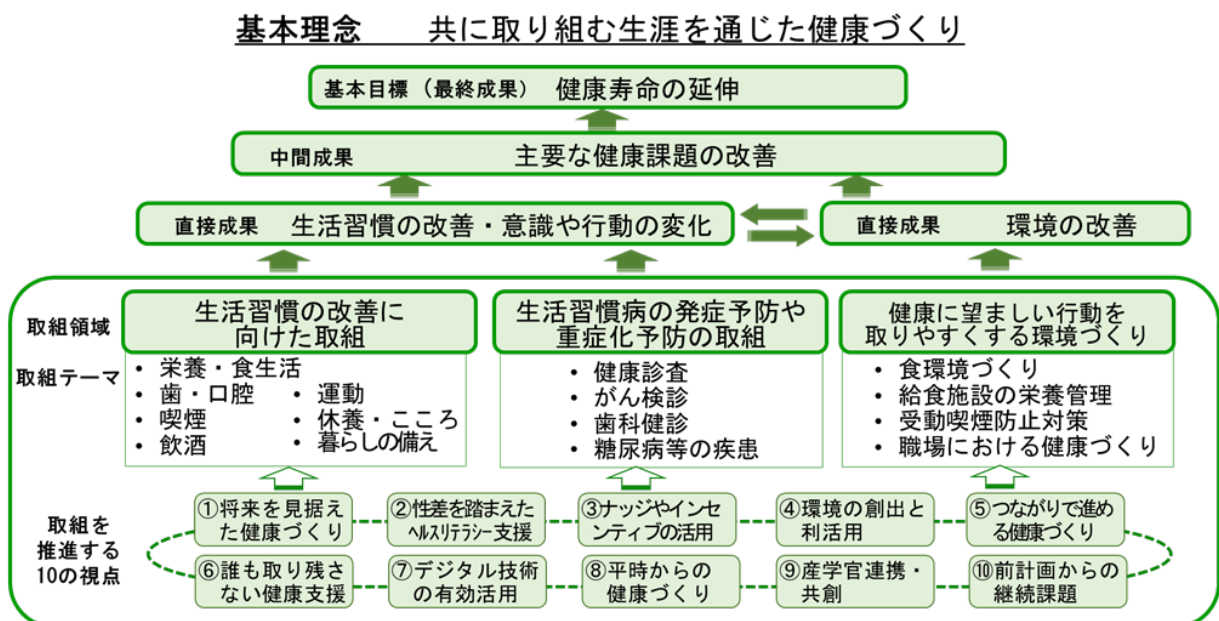
(4) 全体像

健康寿命の延伸に向けて、「生活習慣の改善に向けた取組」においては、「栄養・食生活」、「歯・口腔」、「運動」など、「生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組」においては、「健康診査」、「歯科健診」など、「健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり」においては、「食環境づくり」、「受動喫煙防止対策」、「職場における健康づくり」などに取り組めます。

そして、取組の効果を高めるために、若い世代からの取組を重視する「将来を見据えた健康づくり」や、性別によって異なる健康課題に向けた「性差を踏まえたヘルスリテラシー支援」などの「取組を推進する10の視点」を持ちながら、取組を推進していきます。

第3期健康横浜21

計画期間：令和6年度(2024)～令和17年度(2035)12年間



2 今後のスケジュール

本会議での審議の後、目標値を入れた改訂版を計画冊子として印刷し、広く周知していきます。

3 公開中の広報媒体一覧（本日の資料は策定時点の内容）

計画全文

計画全文テキスト版

冊子要約版：**資料3-2**

概要版：**資料3-3**

概要版動画（掲載準備中）

【掲載場所URL】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/kenkozukuri/21/naiyo/3rd/>

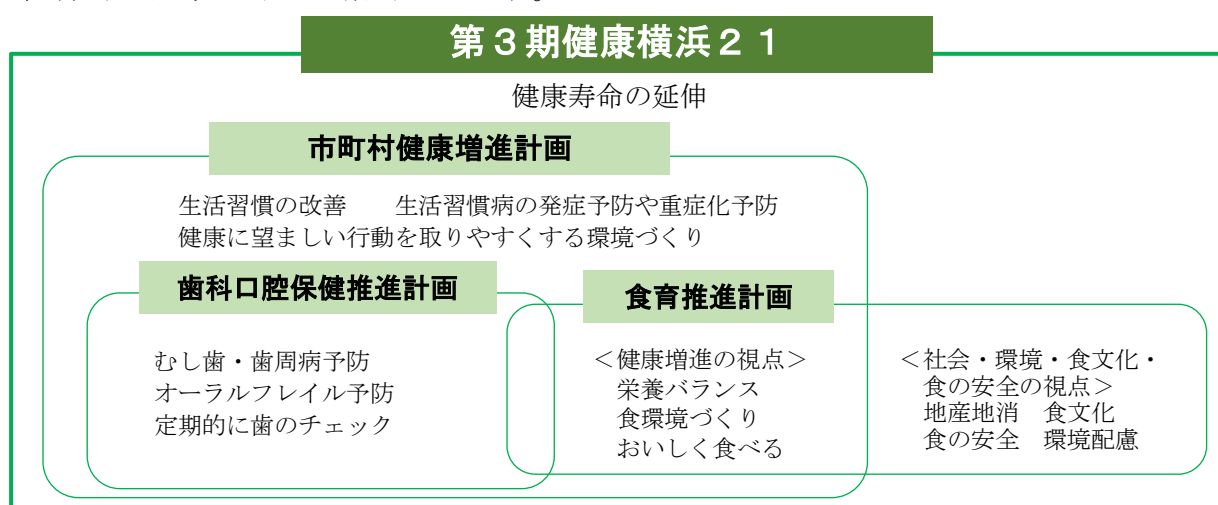
第3期健康横浜21



1 策定の趣旨

「第 3 期健康横浜 2 1～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～」は、健康増進法に基づく「市町村健康増進計画」を軸に、関連する分野の計画として、横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例に基づく「歯科口腔保健推進計画」及び食育基本法に基づく「食育推進計画」の 3 つの計画を一体的に策定するものです。

横浜市民の最も大きな健康課題の一つである生活習慣病の予防を中心とした、横浜市における総合的な健康づくりの指針とします。



2 基本理念「共に取り組む生涯を通じた健康づくり」

乳幼児期から高齢期まで継続した生活習慣の改善、生活習慣病の発症予防や重症化予防、健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくりに、市民、関係機関・団体、行政が共に取り組むことにより、誰もが健やかな生活を送ることができる都市を目指します。

3 基本目標「健康寿命の延伸」

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を延ばします。

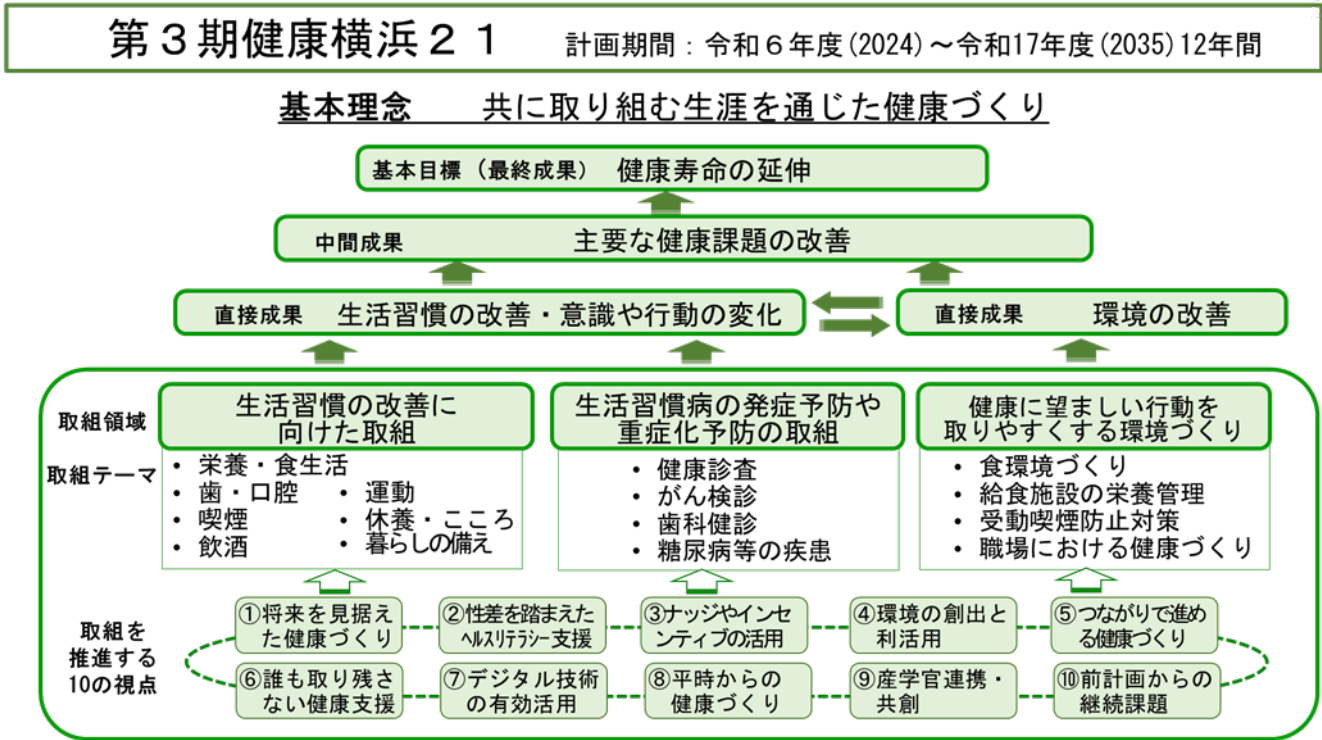
4 取組領域と取組テーマ

取組を推進するに当たっては、取組領域として「生活習慣の改善に向けた取組」、「生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組」、「健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり」を設定します。これらの取組領域の下に位置づけた取組テーマごとに、現状・課題を整理し、取組内容を検討したうえで、横断的な取組も行っていきます。

5 取組を推進する 10 の視点

ライフコースアプローチの重要性を踏まえるとともに、健康に関心がある人だけに届きやすい取組に偏らず、健康格差の拡大を防ぎ、予防効果を高め、時代に即した取組とするために、「将来を見据えた健康づくり」等の取組を推進する 10 の視点を掲げます。

6 計画の体系図



第2章 横浜市民の健康を取り巻く現状

【冊子：P13～55】

1 横浜市民の主要な健康課題の選定

市民の死亡原因の半数を占める悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の予防に加え、「全国データと比較して改善の余地があるもの」、「健康寿命の延伸への寄与が大きいもの」などを主要な健康課題として選定し、その改善を目指します。

主要な健康課題	
①生活習慣病の予防を通じた早世の減少	⑥歯周炎の予防と改善
②男性の肥満や脂質異常症の改善	⑦腰痛の予防と改善
③女性の乳がんの死亡率の減少	⑧骨折・転倒により介護が必要な状態となることの減少
④糖尿病の重症化の予防	⑨高齢期の不慮の事故による死亡率の減少
⑤喫煙・受動喫煙の減少	⑩成人期・壮年期のメンタルヘルスの向上

第3章 市民の行動目標と取組

【冊子：P56～105】

1 取組の対象とするライフステージ

生活習慣に大きく影響する就学・就業の有無等を考慮した、3つのライフステージに合わせた取組を進めます。

- 育ち・学びの世代（乳幼児期～青年期）
- 働き・子育て世代（成人・壮年期）
- 実りの世代（高齢期）

2 ライフステージ別の市民の行動目標の設定

市民一人ひとりが、世代に応じた健康づくりに取り組めるよう、取組テーマごとに、親しみやすく、わかりやすい表現で、ライフステージ別の市民の行動目標を設定します。

ライフステージ 取組テーマ	育ち・学びの世代 (乳幼児期～青年期)	働き・子育て世代 (成人・壮年期)	実りの世代 (高齢期)
栄養・食生活	1日3食、栄養バランスよく食べる		
	適正体重を維持する		
歯・口腔	しっかり噛んで食後は歯みがき	「口から食べる」を維持する	
喫煙	タバコの害を学ぶ・吸い始めない	禁煙にチャレンジ	
飲酒	飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない	飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける	
運動	体を動かすことを楽しむ	日常の中で「こまめに」動く 定期的に「しっかり」運動する	
休養・こころ	早寝・早起き、ぐっすり睡眠	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する つながりを大切にする	
暮らしの備え		自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える 屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	
健康診査		1年に1回、健診を受ける	
がん検診		定期的ながん検診を受ける	
歯科健診		定期的に歯のチェック	
糖尿病等の疾患		検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療継続	

3 生活習慣の改善に向けた取組

市民の行動目標に沿って、生活習慣の改善に向けた取組を行います。

取組テーマ	取組内容（抜粋）
栄養・食生活	学校、保育所等での給食等を通じた食育を実践します。 性別・年代別の特性を踏まえた栄養バランスや適正体重維持を啓発します。
歯・口腔	健全な口腔機能の発達の支援を行います。 オーラルフレイル予防に取り組めるよう関係団体と連携して啓発します。
喫煙	関係団体と連携した20歳未満への喫煙防止教育を行います。 職場ぐるみの禁煙チャレンジを支援します。
飲酒	20歳未満の飲酒の危険性を啓発します。 飲酒による身体等への影響を啓発し「酒は百薬の長」といったイメージの払拭に取り組めます。
運動	外遊びや体を動かす遊びを推奨します。 こまめに体を動かすことや座りすぎ防止を普及します。 運動の継続と習慣化を促す仕掛けづくりを行います。
休養・こころ	睡眠と生活習慣病との関係性やメンタルヘルスに関する情報を発信します。 周囲の人とつながるきっかけを提供し、人とのつながり、楽しみや心のよりどころを見つける大切さを啓発します。
暮らしの備え	自然災害等の事態でも健康を維持する行動や心構えを普及します。 日々の血圧管理の大切さや、ヒートショック予防策を周知します。

4 生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組

市民の行動目標に沿って、生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組を行います。

取組テーマ	取組内容（抜粋）
健康診査	健診の意義や結果の見方の普及を行います。 横浜市健康診査の受診勧奨を強化します。
がん検診	対象年齢となる全市民へ個別勧奨通知を送付します。 地域団体による活動等を通し、がん検診・がん予防の啓発を行います。
歯科健診	口腔ケアの重要性等、各世代に応じた必要な情報の啓発を行います。 歯科疾患と生活習慣病をはじめとした全身疾患との関連性の啓発について、生活習慣病対策と連携して取り組みます。
糖尿病等の疾患	治療継続や重症化予防のための健康相談を行います。 糖尿病の正しい知識の普及、妊娠糖尿病や合併症予防を啓発します。

第4章 環境づくりの目標と取組

【冊子：P106～117】

1 環境づくりの目標設定

個人の生活習慣の改善だけにアプローチするのではなく、健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくりに新たに取り組み、その目標も設定した上で推進していきます。

取組テーマ	環境づくりの目標
食環境づくり	健康への関心の有無にかかわらず、誰もが栄養バランスのよい食事を選択できる食環境を、食品関連事業者等と連携し整える。
給食施設の栄養管理	給食施設がその利用者を対象に、食事の提供を通して、健康の保持増進、疾病の予防、望ましい食習慣の形成を行うことができる環境を整える。
受動喫煙防止対策	あらゆる場において市民が受動喫煙をする機会を減らす。
職場における健康づくり	健康経営に取り組む事業所を増やす。 健康経営の取組により従業員の健康状態が改善したと感じる事業所を増やす。

2 環境づくりの取組

環境づくりの目標に沿って、環境へアプローチする取組を行います。

取組テーマ	取組内容（抜粋）
食環境づくり	産学官が連携し、健康への関心の有無にかかわらず、誰もが健康的な食事ができる食環境づくりを推進します。食環境づくりの枠組みを整備します。
給食施設の栄養管理	生活習慣病予防等について、給食施設に対する研修会を開催します。 給食施設を支援するため、巡回指導等を実施します。
受動喫煙防止対策	店舗の巡回や飲食店向け講習会等を通じて法の周知を行います。 受動喫煙の多い駅周辺や公園等での啓発の強化、関係機関と連携した家庭内や子どもの受動喫煙防止啓発に取り組みます。
職場における健康づくり	横浜健康経営認証制度を活用し、健康経営について啓発します。 小規模の事業所でも従業員の健康づくりに取り組みやすくなるよう、情報発信やコンテンツ提供を行います。

生涯を自分の歯で過ごし、健康を維持していくために「生涯を通じて食事や会話ができる」を基本目標とし、それを実現するため、歯科口腔保健にかかる健康行動の中から、2つの行動目標を設定します。

○ **行動目標 1**

むし歯・歯周病を予防する

○ **行動目標 2**

口腔機能の健全な発育・発達、維持・向上に努める

○ **取組内容**

ライフコースアプローチの重要性を踏まえ、妊娠期からの各ライフステージ・対象像等の特徴や課題に応じたむし歯・歯周病の予防、口腔機能の発育・発達、維持・向上に関する取組を、関係者がそれぞれの立場から推進していきます。

『食』を通して健康と豊かな人間性を育み、活力ある横浜を創る」を基本理念とし、それを実現するため、2つの基本目標を設定します。

○ **基本目標 1**

おいしく楽しい「食」や食環境づくりの推進が、市民一人ひとりの生涯を通じた健康を支える(健康増進の視点)

○ **基本目標 2**

食の多様性や横浜らしい食文化を継承し、食に関する持続可能な環境を整える(社会・環境・食文化・食の安全の視点)

○ **取組内容**

栄養・食生活、食環境づくり、地産地消、日本の食文化の継承、食の安全と環境に配慮した食育について、関係機関と連携して推進していきます。

1 行政の役割

計画を総合的に推進していくために、広報・プロモーションに注力するとともに、関係機関・団体との連携を図り、効果的な施策展開と進捗管理を行います。

全てのライフステージを対象に、市民の健康行動につながる啓発活動を行うとともに、将来を見据えた健康づくりの強化、自然に健康になれる環境づくり、デジタル技術等の更なる活用、誰も取り残さない健康支援、地域人材の育成と活動支援について、行政が中心となって関係機関・団体等と共に重点的な取組を行います。

将来を見据えた健康づくりの強化				自然に健康になれる環境づくり		デジタル技術等の更なる活用	誰も取り残さない健康支援		地域人材の育成／活動支援
職場を通じた健康づくり	女性の健康づくり応援	青年期からの意識啓発	健康を守る暮らしの備え	食環境づくり	禁煙支援・受動喫煙防止	健康状態の見える化と行動変容の促進	糖尿病等の重症化予防	健康格差を広げない取組	地域のつながりで行う健康づくり

1 評価方法

効果的に取組を進めるため、令和11年度に中間評価を行い、計画の進捗状況を確認し、把握された課題を踏まえ計画後半の取組を強化します。計画最終年度の前年度である令和16年度には計画の最終評価を行い、次期計画の策定に生かします。

取組状況を取りまとめ、あらかじめ設定した成果指標により進捗を評価します。

2 成果指標（抜粋）

基本目標	最終成果指標	直近値	目標値
健康寿命の延伸	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間の平均（年）	男性 72.60 女性 75.01	男性 73.70 以上 女性 76.42 以上

主要な健康課題	中間成果指標	直近値	目標
①生活習慣病の予防を通じた早世の減少	心血管疾患、がん、糖尿病、慢性の呼吸器系疾患に関する若年（30～69歳）年齢調整死亡率（人口10万対）	全体 207.4 男性 270.4 女性 143.4	減少
	②男性の肥満や脂質異常症の改善	男性のメタボリックシンドローム判定の割合（%）	31.4
②男性の肥満や脂質異常症の改善	男性のBMIの平均値（kg/m ² ）	24.3	減少
	男性のLDLコレステロールの平均値（mg/dl）	127.5	減少
	男性のLDLコレステロールの要保健指導判定値（120以上）の人の割合（%）	58.7	減少
③女性の乳がんの死亡率の減少	女性の乳がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）	17.3	減少
	女性の乳がんの標準化死亡比	1.168	減少
④糖尿病の重症化の予防	HbA1c8.0%以上の人の割合（%）	1.25	減少
⑤喫煙・受動喫煙の減少	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の年齢調整死亡率（人口10万対）	10.5	減少
⑥歯周炎の予防と改善	40歳以上における歯周炎を有する者の割合（%）（年齢調整値）	65.3	減少
⑦腰痛の予防と改善	腰痛が1か月以上継続している人の割合（%）	28.2	減少
⑧骨折・転倒により介護が必要な状態となることの減少	骨折・転倒が主な原因で介護保険要支援となった人の割合（%）	19.7	減少
⑨高齢期の不慮の事故による死亡率の減少	不慮の溺死及び溺水の年齢調整死亡率（人口10万対）	12.2	減少
	収縮期血圧が受診勧奨値（140以上）の高齢期等（60～74歳）の人の割合（%）	24.6	減少
⑩成人期・壮年期のメンタルヘルスの向上	心理的苦痛を感じている人の割合（%）	全体 16.9 20～39歳男性 28.0 20～39歳女性 24.2 40～64歳男性 15.0 40～64歳女性 17.2	減少

第3期健康横浜21

～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～

概要版



健康横浜21

横浜市 令和6年3月

横浜市民の最も大きな健康課題の一つである 生活習慣病の予防を中心とした、 横浜市における総合的な健康づくりの指針

「市町村健康増進計画」
「歯科口腔保健推進計画」
「食育推進計画」

New

3つの計画を一体的に策定

計画期間

令和6(2024)年度から令和17(2035)年度までの12年間

基本理念

共に取り組む生涯を通じた健康づくり

乳幼児期から高齢期まで継続した生活習慣の改善、生活習慣病の発症予防や重症化予防、健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくりに、市民、関係機関・団体、行政が共に取り組むことにより、誰もが健やかな生活を送ることができる都市を目指します。

基本目標

健康寿命の延伸

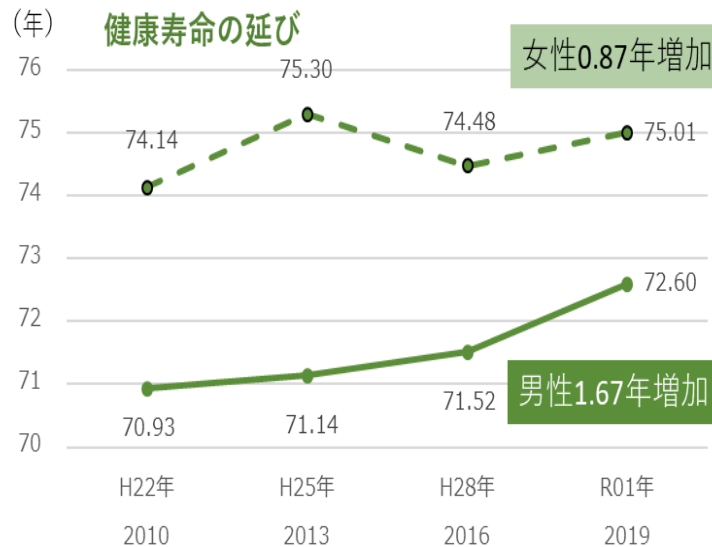
健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を延ばします。

横浜市民の健康を取り巻く現状

全国値と比較可能なデータ等で、横浜市民の健康課題を分析しています。

横浜市民の健康を取り巻く現状

社会背景	就業人口の増加、高齢世帯の増加
平均寿命と健康寿命	この9年間で平均寿命も健康寿命も延伸したが、女性の健康寿命の伸びは鈍化
主な死因	悪性新生物、心疾患、脳血管疾患で死亡数の半数を占め、男性では急性心筋梗塞など、女性では乳がんなどが多い
主な疾患	良好な健診データが多い中で、男性の肥満は全国平均並み、男性の脂質異常症に関する値は全国平均よりも不良
健康に関する意識	市民の3分の1が、生活習慣改善の必要性を感じていても行動するつもりはない、又は、関心がないと回答
第2期計画の振り返り	高齢に至るまで健康を保持するには、高齢者の健康を支えるだけでなく、若い世代からの取組が重要



健康寿命の延伸に向けた主要な健康課題の改善

健康寿命の延伸への寄与が大きい、全国データと比較して改善の余地がある、予防効果が表れやすいなど、次の10項目を「主要な健康課題」として選定し、健康寿命の延伸に向けた中間成果の指標として、その改善を目指します。

健康寿命の延伸に向けた主要な健康課題の改善	
①生活習慣病の予防を通じた早世の減少	⑥歯周炎の予防と改善
②男性の肥満や脂質異常症の改善	⑦腰痛の予防と改善
③女性の乳がんの死亡率の減少	⑧骨折・転倒により介護が必要な状態となることの減少
④糖尿病の重症化の予防	⑨高齢期の不慮の事故による死亡率の減少
⑤喫煙・受動喫煙の減少	⑩成人期・壮年期のメンタルヘルスの向上

取組領域と取組テーマ




健康寿命の延伸に向けた取組を推進するに当たり、取組領域と取組テーマを設定します。

取組テーマごとに取組内容を検討し、横断的な取組も行っていきます。

取組領域	生活習慣の改善に向けた取組	生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組	<div style="border: 2px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">New</div> 健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり
取組テーマ	栄養・食生活 歯・口腔 喫煙 ★ 飲酒 運動 休養・こころ ★ 暮らしの備え	健康診査 がん検診 ★ 歯科健診 ★ 糖尿病等の疾患	★ 食環境づくり ★ 給食施設の栄養管理 ★ 受動喫煙防止対策 ★ 職場における健康づくり

ライフステージの設定

生活習慣に大きく影響する就学・就業の有無等を考慮した、
3つのライフステージを設定します。

ライフ ステージ	 <p>育ち・学びの世代 (乳幼児期～青年期)</p>			 <p>働き・子育て世代 (成人・壮年期)</p>		 <p>実りの世代 (高齢期)</p>	
	年齢の めやす	乳幼児期 (0～6歳)	学齢期 (7～15歳)	青年期 (16～22歳頃)	成人期 (20～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢前期 (65～74歳)

取組を推進する10の視点

行政等が取組を推進する際に、その効果を高めるために意識すべきことを「取組を推進する10の視点」として掲げます。



ライフコースアプローチによる将来に向けた予防



性別によって異なる健康課題を踏まえたヘルスリテラシー向上支援



楽しみや喜びを感じることから健康への関心につなげる仕掛けづくり



健康に好影響をもたらす社会的環境の創出と物理的環境の利活用



人と人とのつながりを通じた身近で気軽な健康づくり



様々な状況にある市民の健康づくりへの支援



デジタル技術を有効活用した便利で効率的なサポート



自然災害や感染症の蔓延等の発生に備えて平時から行う健康づくり



民間事業者・大学等の力を活用した取組の推進と健康づくりの活性化



第2期計画から引き継ぐ課題への対応

ライフコースアプローチ

胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり

ヘルスリテラシー

健康に関する正しい情報入手し、理解して活用する能力のこと

ナッジ

行動経済学上、対象者に選択の余地を残しながらも、より良い方向に誘導する方法

インセンティブ

目標の達成度等の取組の成果等に応じた配分を行うことで、意欲を引き出すための仕組み

ライフステージ別の市民の行動目標の設定

取組テーマ \ ライフステージ	育ち・学びの世代 (乳幼児期～青年期)	働き・子育て世代 (成人・壮年期)	実りの世代 (高齢期)
栄養・食生活	1日3食、栄養バランスよく食べる		
	適正体重を維持する		
歯・口腔	しっかり噛んで食後は歯みがき	「口から食べる」を維持する	
喫煙	タバコの害を学ぶ・吸い始めない	禁煙にチャレンジ	
飲酒	飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない	飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける	
運動	体を動かすことを楽しむ	日常の中で「こまめに」動く	
		定期的に「しっかり」運動する	
休養・こころ	早寝・早起き、ぐっすり睡眠	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	
		つながりを大切にする	
暮らしの備え		自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える	
		屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	
健康診査		1年に1回、健診を受ける	
がん検診		定期的にがん検診を受ける	
歯科健診		定期的に歯のチェック	
糖尿病等の疾患		検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療継続	

栄養・食生活

- ・ 栄養バランスのよい食事をしている人の割合が減少しています。
- ・ 20代～60代の男性、40代～60代の女性の肥満の割合が改善していません。20代女性や高齢者のやせも課題です。

市民の 行動目標

- 1日3食、栄養バランスよく食べる
- 適正体重を維持する

取組内容

学校、保育所等での給食等を通じた食育の実践や、性別・年代別の特性を踏まえた栄養バランスや適正体重維持の啓発を行います。



主な指標	直近値	目標値
栄養バランスのよい食事をしている市民の割合	34.3%	50%以上
家庭で体重を測定する習慣のある者の割合	52.4%	58%以上

歯・口腔

- ・乳幼児・学齢期のむし歯は減っています。
- ・20代～60代におけるオーラルフレイルの言葉を知っている人の割合は低い状況です。

市民の 行動目標

- しっかり噛んで食後は歯みがき
- 「口から食べる」を維持する



取組内容

健全な口腔機能の発達の支援を行います。オーラルフレイル予防に取り組めるよう関係団体と連携して啓発します。



主な指標	直近値	目標値
3歳児で4本以上のむし歯のある者の割合	1%	0%
20代～60代における「オーラルフレイル」の言葉を知っている者の割合	17.5%	20%以上

喫煙

- ・ 20歳未満と同居する人の喫煙率は減少していますが、そのうち女性の喫煙率だけを見るとほとんど変化がありません。
- ・ 20歳以上の喫煙率は減少していますが、年代や性別により差があります。

市民の 行動目標

- タバコの害を学ぶ・吸い始めない
- 禁煙にチャレンジ

取組内容

関係団体と連携した20歳未満への喫煙防止教育を行います。
職場ぐるみの禁煙チャレンジを支援します。



主な指標	直近値	目標値
20歳未満と同居する者の喫煙率	18.6%	14%以下
20歳以上の喫煙率	13.1%	12%以下

飲酒

- ・ 20歳未満はアルコールの分解が遅いため、急性アルコール中毒や臓器に対する悪影響を引き起こしやすい状況です。
- ・ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人がいます。

市民の 行動目標

- 飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない
- 飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける

取組内容

20歳未満の飲酒の危険性を啓発します。飲酒による身体等への影響を啓発し「酒は百薬の長」といったイメージの払拭に取り組みます。



主な指標	直近値	目標値
習慣的に飲酒をしていない20代の割合	86.0%	92%以上
生活習慣病のリスクを高める量（1日当たりの純アルコール摂取量：男性40g以上、女性20g以上）を飲酒している者の割合	男性16.4% 女性13.5%	12%以下 8%以下

運動

- ・週3回以上運動している小・中学生は減少しています。
- ・健康のために意識して体を動かす人は約半数にとどまっています。
- ・生活習慣病予防に効果的な量の運動習慣がある人は半数以下です。

市民の 行動目標

- 体を動かすことを楽しむ
- 日常の中で「こまめに」動く
- 定期的に「しっかり」運動する



取組内容

外遊びや体を動かす遊びを推奨します。
こまめに体を動かすことや座りすぎ防止を普及します。
運動の継続と習慣化を促す仕掛けづくりを行います。

主な指標	直近値	目標値
週3回以上、授業以外に運動やスポーツをする子どもの割合	40.9%	50%以上
健康のために、意識して体を動かしている市民の割合	52.9%	65%以上
20～64歳で生活習慣病予防に効果的な運動習慣（1回30分・週2回以上）がある人の割合	26.9%	30%以上

休養・こころ

- ・ 1日の睡眠時間が6時間未満の小中学生がいます。
- ・ 他都市と比較し、特に成人期男性の睡眠が課題です。
- ・ つながりをお大切にすることは、健康の維持につながります。



市民の 行動目標

- 早寝・早起き、ぐっすり睡眠
- 睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する
- つながりをお大切に

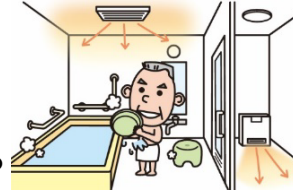
取組内容

睡眠と生活習慣病の関係性等を通じて、規則正しい生活習慣の大切さを啓発します。メンタルヘルスに関する情報発信をします。周囲の人とつながるきっかけを提供し、人とのつながり、楽しみや心のよりどころを見つける大切さを啓発します。

主な指標	直近値	目標値
睡眠時間が6時間未満の小中学生の割合	小5男子6.9% 小5女子5.5%	5%以下 5%以下
睡眠で休養が取れている人の割合	20～59歳男性70.3%	75%以上

暮らしの備え

- ・ 自然災害や感染症などの予期せぬ事態により日常生活に変化が生じる可能性があります。
- ・ 冬場の高齢者の溺死及び溺水による死亡数が多くヒートショックの可能性が考えられます。特に普段から血圧が高めの高齢者は日々の血圧管理が大切です。



市民の 行動目標

- 自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える
- 屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ

取組内容

自然災害等の事態でも健康を維持する行動や心構えを普及します。日々の血圧管理の大切さや、ヒートショック予防策を周知します。

主な指標	直近値	目標値
いつでもどこでも実施できる体操やストレッチ等の実施を習慣にしている人の割合	44.6%	検討中
自宅で血圧を毎日測定する習慣のある60代の割合	20.5%	29.5%以上
ヒートショックの予防方法を知っている人の割合	64.8%	検討中

健康診査

- ・ 40歳以上の横浜市国民健康保険加入者における特定健診の受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け低下していましたが、回復してきています。
- ・ 75歳での健診実施主体の変更による健診受診率の低下を防ぐことが重要です。

市民の 行動目標

■ 1年に1回、健診を受ける

取組内容

健診の意義や結果の見方の普及を行います。
横浜市健康診査の受診勧奨を強化します。



主な指標	直近値	目標値
特定健診受診率 (40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)	26.0%	40.5%以上
75歳の市健康診査受診率	13.7%	24.1%以上

がん検診

- ・横浜市民の死亡数のうち約3割の死因は悪性新生物（がん）が占めています。
- ・がんの早期発見・早期治療には、がん検診の受診率向上、精密検査受診率の向上の両方が必要です

市民の 行動目標

■ 定期的ながん検診を受ける

取組内容

対象年齢となる全市民へ個別勧奨通知を送付します。地域団体による活動等を通し、がん検診・がん予防の啓発を行います。



主な指標	直近値	目標値
各種がん検診受診率	43～57%	60%以上

歯科健診

- ・ 歯や口腔の病気は自覚症状がないまま進行することが多いため、定期的な歯科健診の受診が必要ですが、1年間に歯科健診を受けた人の割合は変化しておらず、引き続きの取組が必要です。

市民の 行動目標

■ 定期的に歯のチェック

取組内容

口腔ケアの重要性等、各世代に応じた必要な情報の啓発を行います。歯科疾患と生活習慣病をはじめとした全身疾患との関連性の啓発について、生活習慣病対策と連携して取り組みます。



主な指標	直近値	目標値
20代～60代における過去1年間に歯科健診を受けた者の割合	48.2%	55%以上

糖尿病等の疾患

- ・糖尿病は重症化すると、全身に様々な合併症を引き起こす疾患です。命に関わるものや生活への影響が大きいものがあり、発症・重症化の予防は命を守り、生活の質を保つために重要です。

市民の 行動目標

■検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・ 治療継続

取組内容

治療継続や重症化予防のための健康相談を行います。
糖尿病の正しい知識の普及、妊娠糖尿病や合併症予防を啓発します。



主な指標	直近値	目標値
糖尿病と診断された人の治療継続者の割合	67.4%	75%以上

取組領域 健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり

健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくりに

新たに取り組み、その目標も設定した上で推進していきます。

取組領域	健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり	環境づくりの目標
取組テーマ	食環境づくり	健康への関心の有無にかかわらず、誰もが栄養バランスのよい食事を選択できる食環境を、食品関連事業者等と連携し整える
	給食施設の栄養管理	給食施設がその利用者を対象に、食事の提供を通して、健康の保持増進、疾病の予防、望ましい食習慣の形成を行うことができる環境を整える
	受動喫煙防止対策	あらゆる場において市民が受動喫煙をする機会を減らす
	職場における健康づくり	健康経営に取り組む事業所を増やす 健康経営の取組により従業員の健康状態が改善したと感じる事業所を増やす

食環境づくり

- ・健康に関心が薄い人、関心を持つ余裕がない人は、自ら健康的な食事を選ぶことが難しい状況です。
- ・誰もが健康に必要な食事の内容と量を自然に選択できるようになるためには、食品関連事業者等とともに、商品の開発や選択できる環境を整えることが必要です。

取組内容

産学官が連携し、健康への関心の有無にかかわらず、誰もが健康的な食事ができる食環境づくりを推進します。
食環境づくりの枠組みを整備します。
食品関連事業者向けPR及び研修会等を開催します。



主な指標	直近値	目標値
栄養バランスのよい食事を選択できる環境づくりに資する取組を行っている店舗数	今後把握	今後検討

給食施設の栄養管理

- ・給食施設が利用者の健康状態、栄養状態を把握し、適切な栄養管理、栄養教育を行っています。
- ・栄養バランスのよい食事をしている人の割合が減少しています。

取組内容

生活習慣病予防や健康づくりを推進するため、適切な栄養管理が行えるよう、給食施設に対する研修会を開催します。全ての給食利用者に対して適切な栄養管理が実施できるよう給食施設を支援するため、巡回指導等を実施します。



給食施設の
栄養管理

主な指標

給食利用者による給食内容の評価の実施の割合

直近値

66.5%

目標値

68%以上

受動喫煙防止対策

- ・健康増進法の改正により、施設屋内の受動喫煙防止対策は進みましたが、一部、対策が不十分な事業所が存在しています。
- ・全体としての受動喫煙機会は減少していますが、法の規制がない屋外や家庭での受動喫煙が顕在化しています。

取組内容

店舗の巡回や飲食店向け講習会等を通じて法の周知を行います。受動喫煙の多い駅周辺や公園等での啓発の強化、関係機関と連携した家庭内や子どもの受動喫煙防止啓発に取り組みます。



主な指標	直近値	目標値
非喫煙者のうち日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合	路上 26.6%	24.3%以下
	職場内 8.7%	7.3%以下
	飲食店 8.6%	7.2%以下
	公園 5.2%	3.9%以下
	家庭内 8.5%	7.1%以下

職場における健康づくり

- ・健康に関する市民意識調査で市民の3分の1は、生活習慣改善の必要性は感じていても行動するつもりはない、又は、関心がないと回答しています。
- ・20～59歳の女性の約8割、男性の9割以上は就労しています。

取組内容

横浜健康経営認証制度を活用し、健康経営について啓発します。小規模の事業所でも従業員の健康づくりに取り組みやすくなるよう、情報発信やコンテンツ提供を行います。



主な指標	直近値	目標値
横浜健康経営認証 新規認証事業所数（累計）	1,104事業所	1,854事業所以上
健康状態の改善を感じている横浜健康経営認証クラスAA、AAA認証事業所の割合	43.9%	48%以上

第3期健康横浜21体系図

計画期間：令和6年度(2024)～令和17年度(2035)12年間

基本理念 共に取り組む生涯を通じた健康づくり

▶冊子7頁

基本目標（最終成果） 健康寿命の延伸

中間成果 主要な健康課題の改善

直接成果 生活習慣の改善・意識や行動の変化

直接成果 環境の改善

取組領域

生活習慣の改善に向けた取組

取組テーマ

- ・ 栄養・食生活
- ・ 歯・口腔
- ・ 喫煙
- ・ 飲酒
- ・ 運動
- ・ 休養・こころ
- ・ 暮らしの備え

生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組

- ・ 健康診査
- ・ がん検診
- ・ 歯科健診
- ・ 糖尿病等の疾患

健康に望ましい行動を取りやすくする環境づくり

- ・ 食環境づくり
- ・ 給食施設の栄養管理
- ・ 受動喫煙防止対策
- ・ 職場における健康づくり

取組を推進する10の視点

① 将来を見据えた健康づくり

② 性差を踏まえたヘルスリテラシー支援

③ ナッジやインセンティブの活用

④ 環境の創出と利活用

⑤ つながりで進める健康づくり

⑥ 誰も取り残さない健康支援

⑦ デジタル技術の有効活用

⑧ 平時からの健康づくり

⑨ 産学官連携・共創

⑩ 前計画からの継続課題

一体的に策定する計画（歯科口腔保健推進計画・食育推進計画）

総合的な健康づくりの指針とするために、関連する分野の2つの計画（歯科口腔保健推進計画、食育推進計画）と一体的に策定しています。

歯科口腔保健推進計画

▶冊子118頁

生涯を自分の歯で過ごし、健康を維持していくために「生涯を通じて食事や会話ができる」を基本目標とし、それを実現するため、歯科口腔保健にかかる健康行動の中から、2つの行動目標を設定します。

■行動目標1

むし歯・歯周病を予防する

■行動目標2

口腔機能の健全な発育・発達、維持・向上に努める

■取組内容

ライフコースアプローチの重要性を踏まえ、妊娠期からの各ライフステージ・対象像等の特徴や課題に応じたむし歯・歯周病の予防、口腔機能の発育・発達、維持・向上に関する取組を、関係者がそれぞれの立場から推進していきます。

食育推進計画

▶冊子141頁

「『食』を通して健康と豊かな人間性を育み、活力ある横浜を創る」を基本理念とし、それを実現するため、2つの基本目標を設定します。

■基本目標1

おいしく楽しい「食」や食環境づくりの推進が、市民一人ひとりの生涯を通じた健康を支える（健康増進の視点）

■基本目標2

食の多様性や横浜らしい食文化を継承し、食に関する持続可能な環境を整える（社会・環境・食文化・食の安全の視点）

■取組内容

栄養・食生活、食環境づくり、地産地消、日本の食文化の継承、食の安全と環境に配慮した食育について、関係機関と連携して推進していきます。

計画の推進体制

▶冊子167頁

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

健康づくりに取り組む市民を増やすために、ライフステージや取り巻く環境を踏まえて、行政と地域・職域の関係機関・団体との協働や、民間事業者・大学等との連携による共創等を通じた取組を行っていきます。

健康横浜21を推進する関係機関・団体（令和5年12月現在）

1	横浜市PTA連絡協議会	11	一般社団法人 横浜市医師会
2	神奈川産業保健総合支援センター	12	一般社団法人 横浜市歯科医師会
3	横浜南労働基準監督署	13	一般社団法人 横浜市薬剤師会
4	日本チェーンストア協会 相鉄ローゼン株式会社	14	公益社団法人 神奈川県栄養士会
5	J A横浜	15	公益財団法人 横浜市スポーツ協会
6	一般社団法人 横浜市食品衛生協会	16	禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議
7	横浜市保健活動推進員会	17	全国健康保険協会神奈川支部
8	横浜市食生活等改善推進員協議会	18	神奈川県国民健康保険団体連合会
9	株式会社神奈川新聞社	19	健康保険組合連合会神奈川連合会
10	株式会社テレビ神奈川		

第3期健康横浜21の目標実現に向けた具体的な事業

▶冊子174頁

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

市民の皆様の健康づくりを支えるための広報・プロモーションに注力します。

行政が中心となって関係機関・団体の皆様とともに重点的な取組を行います。

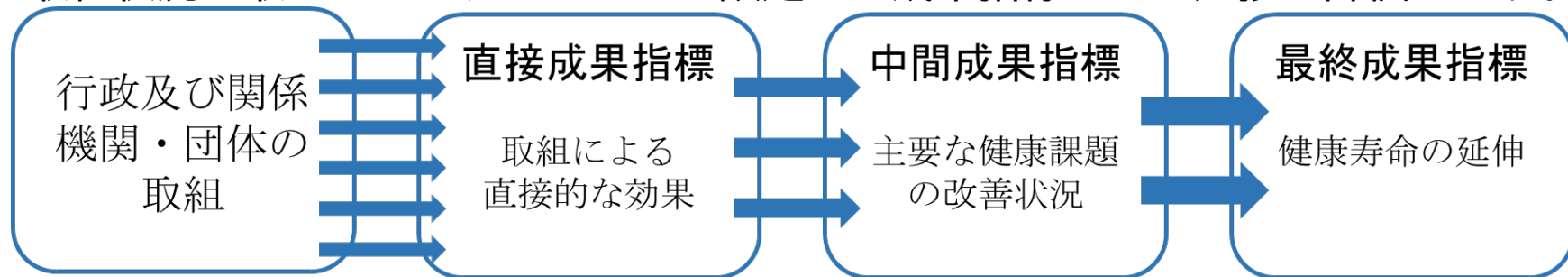
将来を見据えた健康づくりの強化				自然に健康になれる環境づくり		デジタル技術等の更なる活用	誰も取り残さない健康支援		地域人材の育成／活動支援
職場を通じた健康づくり	女性の健康づくり応援	青年期からの意識啓発	健康を守る暮らしの備え	食環境づくり	禁煙支援・受動喫煙防止	健康状態の見える化と行動変容の促進	糖尿病等の重症化予防	健康格差を広げない取組	地域のつながりで行う健康づくり

計画の評価

効果的に取組を進めるための評価スケジュールを立て、進捗状況を確認しながら取組の強化に生かします。

評価スケジュール					
～R06(2024)	R10(2028)	R11(2029)	R15(2033)	R16(2034)	R17(2035)
1年目まで	5年目	6年目	10年目	11年目	12年目
策定時値の把握	中間評価に向けたデータ収集	中間評価	最終評価に向けたデータ収集	最終評価	次期計画策定

取組状況を取りまとめ、あらかじめ設定した成果指標により進捗を評価します。



第3期健康横浜21 全文の閲覧方法

■計画の**全文**は、横浜市健康福祉局健康推進課ホームページから
御覧いただけます。

第3期健康横浜21

検索

【URL】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/kenkozukuri/21/naiyo/3rd/index.html>

第3期健康横浜21



健康横浜21

健やかな明日へ

Healthy lifestyle,
Better future

第3期健康横浜21 指標・目標値 一覧表(案)

資料4

NO	評価項目	課題・取組テーマ	市民の行動目標・環境づくりの目標	指標	区分	単位	出典	直近値	西暦-直近値	和暦-直近値	目標値(目標)	向き	西暦-目標値	和暦-目標値	目標の方向	目標値の設定方法
21	中間成果	⑦腰痛の予防と改善	—	腰痛が1か月以上継続している人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	28.2	2023	R05	—		2032	R14	減少	—
38	直接成果	栄養・食生活	適正体重を維持する	20～60代男性の肥満(BMI25以上)の者の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	30.4	2023	R05	30	未満	2032	R14	減少	国等と同値
39	直接成果	栄養・食生活	適正体重を維持する	40～60代女性の肥満(BMI25以上)の者の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	15.4	2023	R05	15	未満	2032	R14	減少	国等と同値
40	直接成果	栄養・食生活	適正体重を維持する	20～30代女性のやせ(BMI18.5未満)の者の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	16.9	2023	R05	15	未満	2032	R14	減少	国等と同値
79	直接成果	運動	日常の中で「こまめに」動く	座ったり寝転がったりして過ごす時間が長い人の割合	全体	%	健康に関する市民意識調査(速報値)	49.5	2023	R05	47	以下	2032	R14	減少	c_1年分のみデータあり
93	直接成果	休養・こころ	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	睡眠時間が6～9時間の人の割合	20～59歳男性	%	健康に関する市民意識調査(速報値)	74.7	2023	R05	75	以上	2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
94	直接成果	休養・こころ	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	睡眠時間が6～9時間の人の割合	20～59歳女性	%	健康に関する市民意識調査(速報値)	73.4	2023	R05	75	以上	2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
95	直接成果	休養・こころ	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	睡眠時間が6～8時間の人の割合	60代全体	%	健康に関する市民意識調査(速報値)	65.0	2023	R05	65	以上	2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
97	直接成果	休養・こころ	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	横浜健康経営認証事業所のうちメンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合		%	横浜健康経営認証申請時アンケート	61.8	2023	R05	70	以上	2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
98	直接成果	休養・こころ	つながりを大切にする	周囲の人々とは、お互い困った時には助け合えると思う人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	79.2	2023	R05	85	以上	2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
100	直接成果	休養・こころ	つながりを大切にする	地域の人々とのつながりが強いと思う人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	35.6	2023	R05	45	以上	2032	R14	増加	国等と同値

NO	評価項目	課題・取組テーマ	市民の行動目標・環境づくりの目標	指標	区分	単位	出典	直近値	西暦-直近値	和暦-直近値	目標値(目標)	向き	西暦-目標値	和暦-目標値	目標の方向	目標値の設定方法
104	直接成果	暮らしの備え	自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える	健康を維持するための災害時の備えをしている人の割合	体温計	%	健康に関する市民意識調査(速報値)	30.1	2023	R05	35以上		2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
105	直接成果	暮らしの備え	自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える	いつでもどこでも実施できる体操やストレッチ等の実施を習慣にしている人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	44.6	2023	R05	47以上		2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
106	直接成果	暮らしの備え	屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	ヒートショックの予防方法を知っている人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	64.8	2023	R05	70以上		2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
109	直接成果	暮らしの備え	屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	横浜健康経営認証事業所のうち腰痛予防に取り組んでいる事業所の割合		%	横浜健康経営認証申請時アンケート	32.5	2023	R05	35以上		2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
125	直接成果	糖尿病等の疾患	検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療継続	HbA1cの名称とその意味を知っている人の割合		%	健康に関する市民意識調査(速報値)	22.4	2023	R05	30以上		2032	R14	増加	c_1年分のみデータあり
127	直接成果	食環境づくり	健康への関心の有無にかかわらず、誰もが栄養バランスのよい食事を選択できる食環境を、食品関連事業者等と連携し整える	栄養バランスのよい食事を選択できる環境づくりに資する取組を行っている店舗数			今後、把握する枠組みの整備	今後把握			今後検討				増加	e_データがない

第3期 健康横濱21

～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～

計画期間 令和6(2024)年度～令和17(2035)年度

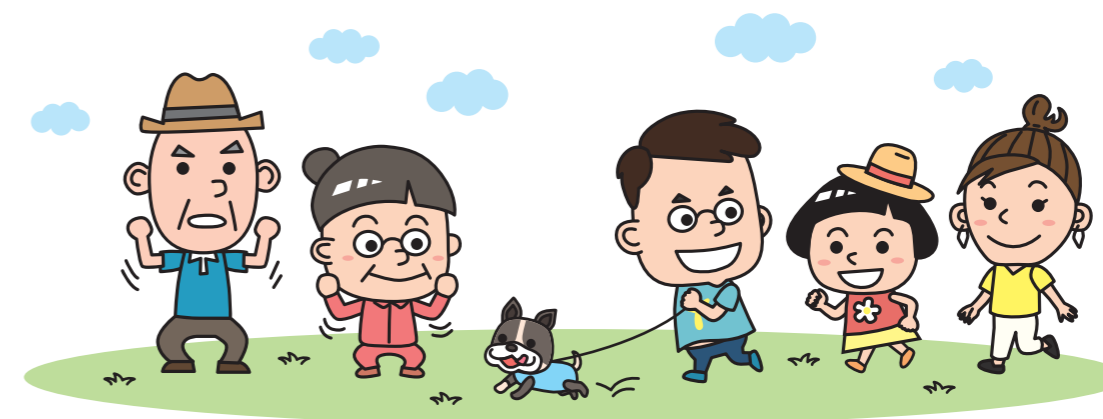
基本理念 共に取り組む生涯を通じた健康づくり 基本目標 健康寿命の延伸

よこはま 健康アクション

〔R6-R11〕

～健康寿命の延伸に向けた10の重点取組～

推進期間：令和6(2024)年度～令和11(2029)年度



ライフステージ	育ち・学びの世代 (乳幼児期～青年期)			働き・子育て世代 (成人・壮年期)		実りの世代 (高齢期)	
	乳幼児期 (0～6歳)	学齢期 (7～15歳)	青年期 (16～22歳頃)	成人期 (20～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢前期 (65～74歳)	高齢後期 (75歳～)
栄養・食生活	1日3食、栄養バランスよく食べる						
	適正体重を維持する						
歯・口腔	しっかり噛んで食後は歯みがき			「口から食べる」を維持する			
喫煙	タバコの害を学ぶ・吸い始めない			禁煙にチャレンジ			
飲酒	飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない			飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける			
運動	体を動かすことを楽しむ			日常の中で「こまめに」動く			
				定期的に「しっかり」運動する			
休養・こころ	早寝・早起き、ぐっすり睡眠			睡眠の質を高める・ストレスに気づき、対処する			
				つながりを大切にする			
暮らしの備え				自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える			
				屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ			
健康診査				1年に1回、健診を受ける			
がん検診				定期的ながん検診を受ける			
歯科健診				定期的に歯のチェック			
糖尿病等の疾患				検査結果に応じた生活習慣の改善・ 早期受診・治療継続			

健康寿命の延伸に向けた主要な健康課題

健康寿命を延ばすために、市民の皆様とともに主要な健康課題の改善を目指します。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1 生活習慣病の予防を通じた早世 [※] の減少 | 6 歯周炎の予防と改善 |
| 2 男性の肥満や脂質異常症の改善 | 7 腰痛の予防と改善 |
| 3 女性の乳がんの死亡率の減少 | 8 骨折・転倒により介護が必要な状態となることの減少 |
| 4 糖尿病の重症化の予防 | 9 高齢期の不慮の事故による死亡率の減少 |
| 5 喫煙・受動喫煙の減少 | 10 成人期・壮年期のメンタルヘルスの向上 |

※早世・・・若くして亡くなること。



よこはま健康アクション10の重点取組

(R6-R11)

将来を見据えた健康づくりの強化

高齢期に至るまでの健康を保持するために、高齢者の健康を支えるとともに、若い世代から健康に関心を持てるような取組を推進します。

Action 1 職場を通じた健康づくり

働く人が増加し、家庭や地域に加え、職場における健康づくりがより一層重要になっていきます。従業員の健康を重視した取組を行う事業所を増やし、その取組を支援します。

取組例 | 健康経営の普及や、栄養・食生活、歯・口腔、健診受診啓発、禁煙サポート、すきま時間の運動、睡眠、ストレス対処等に関する職場における取組の支援



Action 2 女性の健康づくり応援

女性特有の健康課題を踏まえ、健康づくりを支える取組を行います。

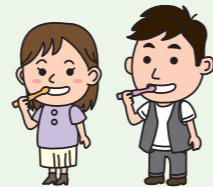
取組例 | 40～50歳代の女性特有の健康課題を踏まえた、乳がん予防啓発、骨粗鬆症予防啓発、ストレス対処等に関する取組



Action 3 青年期からの意識啓発

学校生活等で忙しく、健康に関心が向きにくい若い世代に対して、効果的なアプローチ方法を用いて、意識啓発に取り組みます。

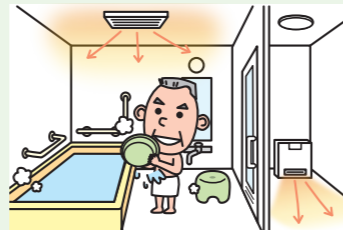
取組例 | 大学や専門学校等との連携による健康な歯と口を維持するための取組、喫煙防止教育に関する取組



Action 4 健康を守る暮らしの備え

屋内で生じる不慮の事故として、高齢者の冬の溺水が多くなっています。入浴時の急な温度変化が血圧等の体に与える影響(ヒートショック)による事故の予防方法を周知します。

取組例 | 血圧管理の大切さとヒートショック予防の啓発に関する取組



自然に健康になれる環境づくり

個人の生活習慣の改善へのアプローチに加えて、誰もが健康に望ましい行動を取りやすくする環境を整えることに取り組みます。

Action 5 食環境づくり

健康への関心の有無にかかわらず、誰もが栄養バランスのよい食事を自然に選択できるよう、食品関連事業者や関係機関とともに、商品の開発や選択できる環境づくりに取り組みます。

取組例 | 民間企業と連携した栄養に配慮した商品の開発、売り場表示の工夫、給食施設の栄養管理に関する取組



Action 6 禁煙支援・受動喫煙防止

広く禁煙啓発を行うとともに、職場ぐるみの禁煙チャレンジを支援し、働き・子育て世代の禁煙を促すことにより、子どもをたばこの害から守ります。あわせて、飲食店等への啓発や喫煙者への配慮の呼び掛けを通じ、あらゆる場所での受動喫煙防止に取り組みます。

取組例 | 子どもと同居する世代への禁煙チャレンジの支援、受動喫煙防止対策の推進



デジタル技術等の更なる活用

スマートフォン等の普及に伴い、歩数・ヘルスケアデータの記録やマイナポータル連携による健診データ等の取得が容易になっており、これらを事業に活用していきます。

Action 7 健康状態の見える化と行動変容の促進

記録されたデータ等を活用して、自身の健康状態をわかりやすく見える化し、アドバイスや将来予測をすることで行動変容を促す仕組みを検討します。

取組例 | 市民の行動変容を促進し、総合的に健康づくりを支援するアプリ等の導入検討



誰も取り残さない健康支援

病気・障害などにより様々な健康状態にある方や、健康づくりに積極的に取り組めない状況にある方が、健康づくりに取り組めるよう支援します。

Action 8 糖尿病等の重症化予防

糖尿病等の治療継続や重症化予防のための生活習慣改善が必要な方を対象とした個別及び集団のアプローチを行います。

取組例 | 特定健診でHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)*が高めだった方などを対象に、健診結果の見方や食生活・運動等の生活習慣に関する健康相談を実施

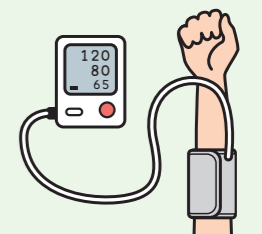
*HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)：過去1～2か月間の平均的な血糖の状態が分かる血液検査です。血糖値と異なり、直前の飲食によって値が変動することはほとんどありません。



Action 9 健康格差を広げない取組

経済面等を含め様々な状況にある方へ、健康診査や医療機関受診の勧奨、健康相談を行います。

取組例 | 生活保護受給者等の健康づくりを支援



地域人材の育成／活動支援

地域における健康づくりの仲間となる人材の育成や活動支援を行います。

Action 10 地域のつながりで行う健康づくり

保健活動推進員や食生活等改善推進員などと連携し、地域の健康課題やニーズを踏まえながら、地域のつながりを生かした啓発活動等に取り組みます。

取組例 | 保健活動推進員や食生活等改善推進員と連携して生活習慣病予防やフレイル・オーラルフレイル予防等を推進



No	団体名	令和6年度以降の取組 (第3期健康横浜21の取組)	令和6年度 取組計画 (今後依頼予定)	ライフ ステージ			行動目標																				
				育ち・学びの世代	働き・子育て世代	実りの世代	食生活		歯・口腔		喫煙		飲酒		運動			休養・こころ			暮らしの備え		健康診査	がん検診	歯科検診	糖尿病等	
							1日3食、栄養バランスよく食べる	適正体重を維持する	しっかりと噛んで食後は歯みがき	「口から食べる」を維持する	タバコの害を学ぶ・吸い始めない	禁煙にチャレンジ	飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない	飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける	体を動かすことを楽しむ	日常の中で「こまめに」動く	定期的に「しっかりと」運動する	早寝・早起き、ぐっすり睡眠	睡眠の質を高める・ストレスに気づき、対処する	つながりを大切にしている	自然災害等の「もしも」の健康リスクに備えている	屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	1年に1回、健診を受ける	定期的にかん検診を受ける	定期的に歯のチェック	検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療継続	
33	10_(株) テレビ神奈川	『横浜マラソン』に合わせ、当日の生中継(7時間半)とブームアップのためのレギュラー番組を放送。市民の健康とスポーツへの関心を喚起してきた。			●	●									●	●	●	●									
34	10_(株) テレビ神奈川	大豆100粒運動 年間：県内の小中学校を中心に約120校に和食の基本食材である大豆「津久井在来」を配布、栽培・加工方法指導のアドバイス、番組での紹介など、食育活動を支援。		●	●	●														●							
35	11_一般社団法人 横浜市医師会	各種がん検診、特定健診の受診率向上と精度管理を充実させる。			●	●																	●	●		●	
36	11_一般社団法人 横浜市医師会	市民公開講座によるオンライン配信により情報を届ける。(行動目標は内容による)			●	●																					
37	11_一般社団法人 横浜市医師会	市民広報誌「みんなの健康」の発行を行い、また、ラジオ日本の「みんなの健康ラジオ」の運営を通じて市民に向け最新の医療情報を分かりやすく発信し、市民や地域の健康増進に貢献していく。(行動目標は内容による)			●	●																					
38	11_一般社団法人 横浜市医師会	がん治療と仕事の両立支援や、長時間労働等のテーマを検討し、産業界向けの研修会の企画を行う。(行動目標はテーマによる)			●	●													●						●		●
39	11_一般社団法人 横浜市医師会	ACP等の市民啓発講演会の企画を行う。 (アドバンス・ケア・プランニング:将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセス)			●	●																					
40	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差の是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進		●				●															●			●	
41	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	市民参加型のイベントとして正しい歯科口腔にかかわる情報発信、多職種協働によるイベント		●	●	●			●	●										●						●	
42	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	歯周病検診受診率の向上(目標数値の設定)、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進			●	●			●	●																●	
43	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づくりステーションを軸とした啓発活動の推進			●	●			●	●										●						●	
44	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	口腔粘膜疾患の啓発活動の推進			●	●			●																	●	
45	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	障害児または配慮が必要な児童への対応を目的とした研修会の開催		●					●																	●	
46	12_一般社団法人 横浜市歯科医師会	児童虐待防止を目的とした各地区の担当者協議会		●	●																					●	
47	13_一般社団法人 横浜市薬剤師会	禁煙支援薬局事業を継続し、禁煙相談・受動喫煙防止対策の推進を支援する。		●	●	●					●	●															
48	13_一般社団法人 横浜市薬剤師会	運動習慣事業として薬草探索健康ウォーキングの開催、フレイル予防の啓発			●	●									●												

No	団体名	令和6年度以降の取組 (第3期健康横浜21の取組)	令和6年度 取組計画 (今後依頼予定)	行動目標																						
				ライフ ステージ			食生活		歯・口腔		喫煙		飲酒		運動			休養・こころ			暮らしの備え		健康診査	がん検診	歯科健診	糖尿病等
				育ち・学びの世代	働き・子育て世代	実りの世代	1日3食、栄養バランスよく食べる	適正体重を維持する	しっかりと噛んで食後は菌みがき	「口から食べる」を維持する	タバコの害を学ぶ・吸い始めない	禁煙にチャレンジ	飲酒のリスクを学ぶ・飲み始めない	飲酒のリスクを踏まえ「飲み過ぎない」を心がける	体を動かすことを楽しむ	日常の中で「こまめに」動く	定期的に「しっかり」運動する	早寝・早起き、ぐっすり睡眠	睡眠の質を高める・ストレスに気付き、対処する	つながりを大切に	自然災害等の「もしも」の健康リスクに備える	屋内で生じる「まさか」の事故を防ぐ	1年に1回、健診を受ける	定期的にかん検診を受ける	定期的に歯のチェック	検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療継続
85	18_神奈川県国民健康保険団体連合会	保険者が行う生活習慣病予防・健康づくり事業への支援を目的として、連合会保健師による事業企画への助言を行うとともに、在宅保健師を派遣する。		●	●		●								●	●						●			●	
86	18_神奈川県国民健康保険団体連合会	保健指導に係る事業及び特定保健指導実施率向上への支援を目的として、在宅保健師を派遣する。		●	●		●								●	●						●			●	
87	18_神奈川県国民健康保険団体連合会	保険者等（後期高齢者医療広域連合含む）のデータヘルズ計画がPDCAサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会による助言・評価を行う。		●	●																	●			●	
88	18_神奈川県国民健康保険団体連合会	健診（保健指導）、医療、介護の情報を個人単位で紐づけ、集計、分析するKDBシステムについて、より効果的、効率的に活用していただくことを目的として、実機を使った研修会を開催する。		●	●		●															●			●	
89	19_健康保険組合連合会神奈川連合会	加盟健保が第4期特定健診・特定保健指導の目標を達成できるよう、受診率向上のための支援策を実施する。		●																		●				
90	19_健康保険組合連合会神奈川連合会	加盟健保が第3期データヘルズ計画を確実に実行できるよう、幅広い共同保健事業を展開し支援していく。		●			●	●	●	●	●			●		●						●	●		●	
				33	71	65	24	15	13	8	10	9	6	4	17	17	16	6	13	10	13	5	25	14	14	21